# 随意契約結果書

| | |
|---|---|
| 物品等の名称<br>及び数量 | 令和６年度大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究 |
| 契約担当官等の<br>氏名並びにその<br>所属する部局の<br>名称及び所在地 | 分任支出負担行為担当官　九州地方整備局<br>筑後川河川事務所長<br>塚　原　　隆　夫<br>福岡県久留米市高野一丁目２番１号 |
| 契 約 締 結 日 | 令和　６年　６月　６日 |
| 契約の相手方の<br>氏名及び住所 | 国立大学法人　九州大学 |
| 契約金額<br>（消費税及び地<br>方消費税含む） | ￥１４，８７２，０００－ |
| 予定価格<br>（消費税及び地<br>方消費税含む） | ￥１４，８７２，０００－ |
| 随意契約による<br>こととした理由 | 別紙のとおり |
| 備　　考 | |

# 随 意 契 約 理 由 書

１．件　　名：　大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究

２．履行場所：福岡県久留米市高野１丁目２番１号（九州地方整備局 筑後川河川事務所）

３．随意契約の相手方：福岡県福岡市西区元岡 744
国立大学法人九州大学　総長　石橋　達朗
０９２－６４２－２１１１

４．随意契約適用法令：会計法第２９条の３第４項及び
予算決算及び会計令第１０２条の４第３号

５．当該業務の目的・内容及び随意契約に付する理由

１）当該業務の目的

本委託業務は、大規模な洪水攪乱後の生態系回復プロセスを解明のために流域内において発生した攪乱形態が類似した平成２９年九州北部豪雨（短期時間軸）、１７２０年の亨保水害（長期時間軸）を生態学、郷土史学的手法を用いた調査を実施、比較することにより、回復プロセスの概要解明を行うものである。また、激甚化した災害レベルでも生態系回復のソースとなりうる空間構造を流程ごとに特定することを目的とする。また、災害復旧等の河川改修の影響を明らかにし、災害復旧の在り方について検討する。

２）業務の内容

本委託業務は、回復プロセスの概要解明等に必要な流域内で発生した時間軸のことなる大規模洪水攪乱の状況を生態学、郷土史学的手法で以下の調査を実施する。

① 異なる攪乱（水系）での生態系回復ソース、残存ハビタットの特定
② 復旧工事と生物相の回復との関係性
③ 攪乱と遺伝的多様性との関連性
④ 希少種、特に種の保存法指定種セボシタビラの再導入とモニタリング
⑤ ２０２３年７月豪雨の影響評価と平成２９年７月豪雨との比較

３）随意契約に付する理由

本委託業務は、令和２年度に、有識者で構成される評価委員会の審査を経て、河川砂防技術研究開発公募地域課題分野（河川生態）一般研究（移行課題）に採択され、委託先（九州大学大学院農学研究院（鬼倉徳雄）を研究代表者とする共同研究体）として選定され、委託契約を行うよう水管理・国土保全局長より通知されたものである。なお、令和５年度末の中間評価結果において、「令和６年度一般研究（継続）として採択する。」と審議されている。①

以上のことから、本業務は会計法第２９条の３第４項及び予算決算及び会計令第１０２条の４第３号の規定により、随意契約するものである。

（随意契約理由作成者）
筑後川河川事務所　河川環境課長